校訓：質実　敬愛　勤勉

山口中村学園高等学校 学校だより　4月号

４月１０日発行　　URL:https://www.y-nakamura.jp/　　TEL 083-922-0418　文責　鶴永幸彦

令７年度始動　「始業式」「入学式」挙行

４月８日（火）３つの式を実施しました。校名変更式、始業式、入学式です。校名変更式については、裏面(次頁)に掲載しています。

本格的に令和7.年度がスタートしました。始業式では、大きく次の２点について述べました。１点目は、自分自身は何者なのか探求し、どんな大人になりたいのか見極め、なりたい自分の実現に向け努力すること。２点目は、誰もが安心で楽しく仲良く生活できるように、「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」について。

入学式では、女子校から共学化し、山口中村学園高等学校として新入生が第一期生となり、新たな歴史を共に作っていこうと、そのためにも校訓や学校スローガンを意識して生活をするよう語りました。また、学校は学びの場であるとともに、自己発見の場、さらに夢・志・目標の実現に向けた挑戦の場であることを述べました。

生徒たちは、いずれの式においても集中して熱心に聞いていました。

山口中村学園高等学校の一層の飛躍を感じるすばらしい式でした。

誇り高く夢を道しるべに　凛と煌めくなりたい自分をつくる

令和７年度が始まりました。本年度から看護・福祉・調理の３学科において、男子生徒を受け入れます。新入生１５９名のうち、１９名が男子生徒です。嬉しいかぎりです。大人数の女生徒の中でも、しっかり存在感を示してほしいと思っています。

またご案内のとおり、令和８年度には普通科・商業科においても男子生徒を受け入れることとしており、さらに多くの男子生徒が入学してくれるものと、期待しております。

今年度の学校スローガンはタイトルにあるように、「誇り高く夢を道しるべに　凛と煌めくなりたい自分をつくる」としました。

世界に８億の人がいようと、自分と同じ人は一人もおらず、そうした意味で個人として自分は唯一無二の存在です。他者と比較せずに、ありのままの自分に対して自信と誇りをもってほしいと思います。また、自分とはどういう人間なのか、しっかり探求し見極め、自分を発見するとともに、これからどのような人間を目指していくのか日々の生活、学習の中で、明確にしつつ、なりたい自分をつくりあげていってほしいと思います。誰かのコピーではなく、別人格としてキャラづくりではなく、本来の自己に根ざした煌めく自分をつくることが大事です。

山口中村学園高校は、なりたい自分が見つけられる学校です。真摯な生き方こそ、折れない自信にもつながります。

裏面に続く

チャレンジ目標：時を守り　場を清め　礼を正す

始まりの４月　主な行事

別れの３月から、出会い、始まりの４月になりました。月日も１月、２月、３月と加速度をつけて過ぎゆく感じがしましたが、４月になると速度が遅くなった気もします。様々な儀式等非日常の行事が続きますので、気持ちに緩みが出やすく気をつけたいものです。

日	曜	内　　容
8	火	校名変更式/離･着任式/始業式 入学式/入寮式
9	水	対面式、１年オリエンテーション 制服着こなしセミナー、部活動紹介
10	木	１年歓迎テスト
11	金	地区集会

日	曜	内　　容
17	木	尿検査、歯科検診
18	金	尿検査、歯科検診、調理科戴帽式
28	月	身体測定、新体力テスト
30	水	到達度テスト(学際1,進学2) 基礎力診断テスト(3)

校名変更式　新たな歴史を紡いでいく

４月８日（火）校名変更式を実施しました。内容は、校長式辞、理事長・校長・生徒会長による学校銘板の除幕、理事長挨拶、生徒会長挨拶、校歌斉唱です。

校長は、創始者中村ユス先生によって始められた本校の歴史の概要を述べつつ、理念を説明し女子高を共学化した理由にも言及して、これまでの歴史と伝統を引き継ぎながら、皆で新たな歴史を紡いでいこうと呼びかけました。理事長は、校名の変更に際し、創始者の名前を生かした思いについて述べました。生徒会長は、共学化することにより慣れ親しんだ中村女子高等学校の名称が変わることの名残惜しさを語りつつ、自分たち生徒で新たな歴史を紡いでいこうと決意を述べました。素晴らしい未来を予見させる、新たな門出にふさわしい式でした。

いい本は人生を豊かにしてくれる

真田幸村の活躍が劇画のように描かれていて大変おもしろいです。また、真田親子の父と息子たちとのかかわりや、兄弟の関わりの描写も詳細で、現代に通じる親子、兄弟関係の理解が深まります。歴史小説の好きな人には、たまらない１冊になると思います。さらに、ビジネスにおける駆け引き、心理戦を垣間見るようです。

『幸村を討て』　　今村翔吾　著　　中央公論新社

豊臣、徳川の一大決戦に係る関ヶ原の戦いを舞台に、真田親子を中心に据えて、徳川家康をはじめとした、様々な武将たちとの駆け引きが大変興味深いです。また、武将たちの心理描写が詳細で引き込まれますし、生死の係った戦や、時代背景に関わり人はどのように生きようとするのか、人のものの見方、考え方を知る上で大変おもしろいです。

学校経営方針　「仁慈・研鑽」